

「ちゃぶ台次世代ステップアップ研修（第2回研修会）」開催要項

1. 趣 旨 現職教職員、教職志望学生や教育関係者等が、学校や地域の教育諸課題の解決に向けた講義、課題研修やピア・サポート等を行うことにより、教職実践課題の解決力や省察力の向上を図るとともに、ステージ各期の教職員や学校組織を牽引できるリーダーとしての資質能力の向上を図る。
2. 主 催 独立行政法人教職員支援機構山口大学センター
山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）
山口大学教育学部
3. 共 催 山口県教育委員会・山口市教育委員会
4. 開催日時 令和8年8月22日（土）13：00～17：00
5. 開催場所 山口大学教育学部「21 番教室」（講義棟2 階）他
〒753-8513 山口市大字吉田 1677-1 Tel:083-933-5300
6. 参加者 学校等に勤務する教職員、教職志望学生、大学教職員や教育関係者等
7. 研修内容
【Session I】
(1)開会行事
挨拶 山口大学教育学部・教育学研究科 学部長・研究科長 中 田 充
諸連絡 研修プログラム紹介、山口県「高校生のための教職セミナー」等
【Session II】
(2)講演
テーマ 「教育的愛情と子どもたちへの関わり
～それでよか、そのままでよかの心～」
講 師 学校法人立花学園 立花高等学校 校長 齋 藤 眞 人 さん
【Session III】
(3)ちゃぶ台協議
深め合い 「自身への問いかけと明日からの自分、明日からの学校（対話）」
(4)シェアリング
深め合い 「それぞれの協議の中で」
【Session IV】
(5)閉会行事
講評・挨拶 山口県教育庁教職員課 教育調整監（人事企画班長） 松 嶋 渉

8. 「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」にもとづく取扱（お願い）

- (1)本研修の実施においては、主催者として、「感染防止の5つの基本(厚生労働省 ADB,2023.3.8)」による感染予防に努めるとともに、受講者一人一人に感染防止に向けた責任ある行動を求める。
- (2)研修地域や受講者居住地の感染状況や推移、研修関係者の意向等をふまえて、研修形態を「対面・参集型研修」から「オンライン研修」等に変更する場合がある。

9. その他

- (1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。
- (2)本研修事業では、参加者に対する保育サービスとして、資格所有者による「託児サービス（一時預かり）」が提供される。提供時間は研修行事前 30 分から行事後 30 分とする。

山口大学吉田キャンパスの構内図（教育学部棟への移動経路等）



if you want to go fast, go alone.
if you want to go far, go together !

早行きたければ一人で進め 遠くまで行きたければみんなで進め



ちゃぶ台次世代ステップアップ研修講座

(ちゃぶ台次世代コーホート)「学級(会員)通信」

No.1 2026.7.3

NITS 山口大学センター・山口大学・山口県教育委員会

互いの価値観や経験、思いを聴きあって、互いの違いを楽しんで...
今年も...「ちゃぶ台次世代コーホート」が... 始まりました!

Upgraded &
Enhanced!



NITS 山口大学センター・山口大学(教育学部・教職大学院)・山口県教育委員会が一体となって、教職キャリアを貫く職能開発 + 各ステージリーダー養成 + 地域(山口県・市町)での教職員の養成や研修の活性化を目指すこのプログラムも20年目。長年のごひいき、ありがとうございます。

本年度は、山口・広島・大阪・東京の現職教職員47人、教職大学院学部卒院生19人、教職を志望する学部生(他大学含む)40人、県教委と山口大教職員21人の「Cohort」でスタートしました。

第1回研修会は6月20日(土)、山口大学に、現職教員21人、院生19人、学部生14人、指導者・スタッフ16人の70人が集い、ウキウキワイワイの研修を行いました。概要を報告します。

開講のあいさつ、研修びらき

NITS 山口大学センターの和泉研二センター長の挨拶に続いて「研修びらき」です。

まずは自身の「かつて・ちょっと前・今・これから」を整え紹介しあう「自分をつなぐ自己紹介」。ワイワイガヤガヤの雰囲気、レスポンス盛り上がる中でのCohortづくりでした。

続いて、これからの研修の環境づくり(役割分担とコミュニケーション、計画<実践の重要性の共有)をめざした「マシュマロチャレンジ」でつながりを深めました。プロトタイプ的重要性、不確実性への対応、心理的安全性とチームワークについても考える機会にもなったようでした。面白かったですね。またやりましょう!



参加者のコメントから

4つのテーマをもとに、参加者について「一人の大人としてお互いを知る」ことができた良い機会だった。普段の生活や仕事ではどうしても、その役やその立場での会話が多くなり、話す内容も仕事の内容がほとんどになってしまう。「一人の大人としての雑談がさまざまな人とできる力」がとても大切だなと改めて思った。(中学校)

提示されたトピックのおかげで緊張することなく話すことができた。限られた時間内でありながら、メンバーそれぞれの個性を深く知る貴重なきっかけとなった。それらを実感できたのは、質問設定に工夫があったからだと考えた。誕生日や血液型といった表面的なプロフィールを形通りに語るのではなく、「前の学校の自慢ポイント」や「無人島に持って行く本」といった一ひねりある問いが用意されていた。これによって、単なる事実の共有にとどまらず、その人の価値観や人柄、内面といった深い部分まで自然と引き出されるのだと実感した。中でも「無人島に持って行く本」という質問は、話す人の内面をより深く知れる質問で、なぜその本を選んだのかと自然に聞きたくなるような話題で、「私もその本、好き!」といった共感が生まれ、自然と会話が弾みきっかけとなった。相手を否定せず、興味を持って受け入れる肯定的な雰囲気がその場で作られ、一気に班員間の心理的距離が縮まったと感じる。表面的な情報交換ではなく、問いの工夫次第で他者への理解と関係構築がここまで深まるのだと学んだ。(ストマス院生)



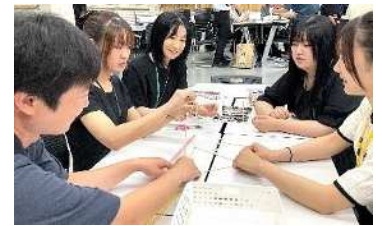
今回も班はどなたも初めてお会いする人ばかりだったので、マシュマロチャレンジでは塔の建設と同時に、「この人、どんな人なのかな。」と覗いながら取り組みました。結論、アサーティブな方ばかりで、真剣なのに楽しく、それぞれ考えながらも手を動かし、塔を建てることができました。我がクラスでは間違いなく揉めるだろうな、でも、いつかやってみたいな、と密かに思っています。(小学校)

アイスブレイク後の話で出てきた「とりあえずやってみないとわからない」に共感できました。教師は生徒や保護者など人間を相手にしているので、おおよその計画は立てますが、やってみないと分からないことも多いです。性格や教科的に細かく計画を立てたい派の人も多いですが、私は大雑把に決めて臨機応変に対応する方が好きです。(中学校)



パスタとマシュマロを用いてタワーを建てる活動が行われた。グループには多様なバックグラウンドを持つ参加者がおり、貴重な経験であると感じた。また、初対面の緊張感を和らげるだけでなく、互いの立場を超えてフラットに語り合える関係性を構築する仕掛けの重要性について身をもって学び、確かな学びの契機とすることができた。「ちゃぶ台」の良さは、単に体験を楽しんで終わるのではなく、その直後に体験内容についての深い協議がセットになっている点にあると感じた。活動中、私のグループには経験者がおり、当初はその参加者主導で進みそうになる場面があった。しかし、途中でグループを分割し、2段目を作る役割を別途設けることで、結果的に全員が役割を持って参画することができた。この経験から、実際の学校現場で児童生徒に同様の協働学習を課す際には、教員側が「グループ人数の適切な編成」や「明確な役割提示」といった環境調整やファシリテーションを行う重要性に気づかされた。また、その後の協議では、「99cm という世界記録の提示が、児童生徒の動機付けにつながるか、あるいは逆に意欲を阻害してしまうか」という点が議論となった。私は当初、高い目標の提示は純粋に動機付けになると疑っていなかったが、協議の中で「身近な学級内だけで 1 位を決める方が、自分事として頑張れるのではないか」という視点にふれ考えが深まった。画一的な正解を求めず、目の前の生徒の状況や発達段階に応じて、どのような提示が最適な動機付けになるかを考えていきたい。(ストマス院生)

参加者の名簿をぱっと見た時に、大学生の名前が少なく、圧倒的に現職の先生方や大学の先生方の名前が多くあったので、私がついていける内容なのかと不安いっぱい会場まで行きました。私のグループにも現職の先生と院生の先輩が 2 人も居られ、頑張らないと、と思っていました。しかし、面白い自己紹介やマシュマロタワーのアイスブレイクを行うことができ、今日一日、一緒に学ぶ先輩方と他愛ない会話ができたり、一緒に協力し、試行錯誤したりしながら、一つのことを創り上げていく活動を通してとても安心して以降の研修に参加することができました。このような体験や感覚を大人である私でさえも持てるということは、子どもたちにとっても同じなのではないかと感じました。学級びらきやなにか初めてのグループで活動する機会がある時には、子どもたちに心理的安心を与えて、ストレスなく、楽しく学んでいけるように、アイスブレイクはとても重要な活動になると学ぶことができました。(学部生)



講義 令和8年度山口県教育の重点施策について

山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 灘 貴之 さん

山口県を中心とする地域の教職員の養成・研修を中核的に担う大学(学部・研究科)と NITS(山口大学センター)と山口県教委の主催研修ですから、初回テーマは山口県教育です!ハイ(^^) 灘班長さんには、山口県教育振興基本計画や本年度の重点施策について豊富な資料やデータをもとに教えていただきました。いつも「温かさと包容力」「ソフトな語り口」が素敵ですね!貴重なご講義をありがとうございました。

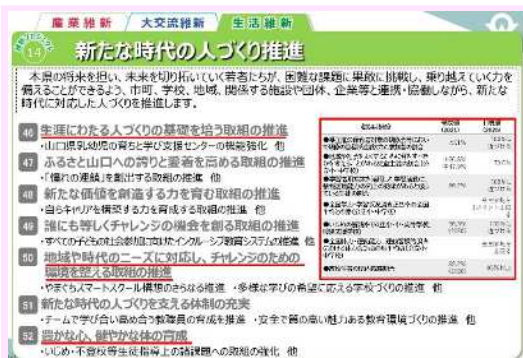


参加者のコメントから

若い頃に比べて、山口県がどのような生き残り戦略を立て、どこに重点を置いて取り組もうとしているのを知ることが、教員として教育活動を営んでいく上で大変重要であるように感じるようになった。高校籍の教員としてはネクストハイスクール構想が気になった。これら国が示している方向性について、その存在自体を知らない教員が大半で、方向性に沿ってどのような学校運営を進めていくかを考える段階にまだない。私立高校が力を付けてきている中で、公立高校がどのように特色を打ち出して学校改革を進めていくか考えなければならないと思った。

また、一般会計に占める教育費の割合が一番大きいと知って大変嬉しかった。やまぐちスマートスクール構想

2.0については、山口県の教育現場のICT化に向けた動きが大変速く、フットワークも軽くととてもありがたい。生成 AI が台頭してきているが、生徒や教職員がこれらを有効活用する施策がどんどん進んでいきそうで、自身も研鑽を怠らずに技術を活用できる人間にならなければならないと思った。(高校)



ていくのかは違ってくるはずです。また、県の予算の中で最も「教育」に予算が割り当てられていることも、「知らないまま」では、きっと県の施策に対して一面的な見方に偏ってしまいそうです。県の動向をふまえ、「自分なりの教育理論」の枠を広げていきたいと思います。(中学校)

「やまぐちPRIDE」の醸成やいじめ・不登校対策の一層の強化、「やまぐちスマートスクール構想 2.0」の推進、質の高い教育環境づくりの推進等、山口県の令和8年度における重点施策について学び、教育環境の改善への理解を深めることができた。特に前任校の高等部では、「やまぐちスマートスクール交流プログラム」を3年連続で実施した。生徒たちは、1人1台端末を活用して海外の学校や教育機関とオンラインでつながり、主体的に山口県の魅力、自校や地域について紹介した。また、交流を通して他国の文化や生活様式等を知ること、自国や郷土の良さを再発見するとともに、教科横断的な学びへとつながることができた。現在もこれらの経験を活かして「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒の確かな学力を育みたいと考えている。また、コミュニティ・スクールを核とした地域連携教育とキャリア教育を推進することで、子どもたちの郷土愛や社会へ貢献しようとする意欲を高めていきたい。(特別支援学校)



特に印象的だったのは、自治体の予算において最も大きな割合を占めているのが「教育費」であるという点だ。この事実を知り、私たちが目指す教師という職業は、山口の未来を担う次世代の人々を教育という形で直接的に支える重要な責務があるのだと改めて身が引き締まる思いがした。講義を通じて、子どもたちが生まれ育った山口に深い愛着と誇りを抱き「やまぐちPRIDE」を育てていくことの大切さを実感した。そのためには学校内だけの教育にとどまらず、地域社会との連携をこれまで以上に強固にすることが不可欠であると考えます。地域全体で子どもたちを育てる環境をつくることで、子どもたち自身が地域の魅力や温かさ

に触れ、改めて山口の良さを再発見するきっかけを提供したい。私自身も山口県で生まれ育ち、この地の豊かな環境と教育によって育てられてきた一人である。これまで受けてきた恩恵を今度は教師という立場から次世代へと還元し、郷土に貢献できる人材を育成していくことが私にとっての恩返しになると感じた。山口の未来をたくましく切り拓く子どもたちのために、日々の学びを深め、教育の実践に向けて真摯に努めていきたい。(ストマス院生)



自分が大学1年生の頃、同じように現職の先生を囲んで質問をしていた光景がよみがえりました。正直、私がどんな質問をしたのかははっきりしませんが、現職の先生の凜とした佇まいから芯の強さを感じ、子どもへの愛情を柔らかな表情で語っておられたことを覚えています。貴重な機会をありがとうございます。学生の皆さんが志をもって、夢に向かって成長しようとする姿に感動しました。担任する子どもたちがあのような表情で授業を受けてくれるとよいのですが。学生の皆さんの声を聞けたことで、少しはお役に立てたようだと安心しましたし、私自身、大きな励みになりました。(小学校)



とても意欲的で素直な学生たちとの交流ができて、エネルギーをいただいた。自分としては、学生が抱えている素直な気持ちを受け止めて、それに丁寧に答えてあげられるように心がけた。学校の現状を伝える中で、これからも変化する可能性がある内容と、これまでもそしてこれからも変わらないものがあるその両面をしっかりと伝えていくことが大切だと思った。(中学校)



「『絶対に』教員になりたいです!」と、最後のふりかえりで発言した学生さんがいました。お話しした教職への思いやお話が響いたのかもと改めて感極まるとともに、あらためて、そんな熱意を学生たちがもてる存在でありたいと強く感じました。教師は「ブラック」だと、よく言われますが、きっと「その大変さよりもやりがいの方が勝つ」ことを長い目で見ることを、学生さんたちがとらえてくださったなら嬉しいです。「先生はブラックだと聞きますが、そんな不安は小さくなり、楽しみがふえて、教職が好きになりました」と発言した学生さんもいらっしゃいました。この発言は、「教員は大変な職業、仕事であること」をただ否定するものではなく、そのことをふまえ、「やりがいや感動がもっとたくさんある」という教職の見えにくい面をとらえてくれたとも考えられます。このように、何かの物ごとを一面的にとらえるのではなく、多面的にとらえ、前向きに突き進んでいく視点を、お互い大切にしていきたいと感じました。(中学校)

学部の1年生がここまでしっかり自分の将来に向けて考えている、ということに驚きと、学校教育はまだまだ捨てたもんじゃないな、と思った。また、それぞれがなりたい教師像を語るが、ほとんどが、自分たちが今まで受けてきた教育、出会ってきた先生方の影響が大きいと感じた。「あんな先生になりたいです。」と真剣な眼差しで話をしている学生を見て、もっと山口県の教育を盛り上げていってほしいと感じた。その後のリフレクションも素晴らしく、どの学生の文章も中身がしっかり詰まっていて、真剣に向き合ってくれたことが分かるものだった。そんな未来の宝たちに関われたことが自分にとって財産となり、刺激にもなった。こうした若い力を存分に伸ばして働くことができる環境を作っていきたいと感じることができた。(小学校)



私の班では最初に「質問しにくいことでも遠慮せずに聞く」、「将来教員になりたいと思っていなくても大丈夫」という声かけを行ったからか、多くの質問を受けることができた。質問に答えたり、一緒になって考えたりする中で、一番印象的だったのは、やはり学部生の「フレッシュさ」であった。当初、質問事項として残業時間や部活動の拘束時間、保護者対応などのどちらかと言うとネガティブな要素が多いのではないかと予想していた。しかし学部生から出る質問は「子どもと接していて楽しい時間」や、「大学生のうちにしておいた方がよいこと」など、ポジティブかつ根本に近いものが多かった。このようなフレッシュさに洗礼され、しばらく教育にふれていることで忘れかけていた初心を思い出すことができた。(ストマス院生)

学生との交流会を通じて、学生たちが抱く教職への不安や教職に対する希望、彼らが捉える理想的な教師像に直接ふれることができた。学生からの質問にただ答えるだけでなく、そこから問いを広げ、考えを深めさせ、自己を見つめ直すきっかけを提供することが重要であると感じた。また、子どもの成長を間近で見られる教員の魅力や、現場で直面した課題への対応方を具体的に伝えることで、学生が安心して教職を目指せる一助になりたいと考えた。学生たちには、現職教員との対話を重ねる中で自身の可能性を見出し、自己の特性への理解を深めながら、新たな視点を得る契機としてほしいと願っている。(特別支援学校)

演習「教職志望学生たちとの対話(教職概論 座談会への参画)」 打ち合わせ「学生たちとの「対話」の前に」

教育学部1年生がめざす「教師像」

- 生徒と一緒に実践を通して学んでいける先生になりたい!
- 子どもが「学校に来ることが楽しい!」と思えるような学級づくりができる先生になりたい!
- 誰かにとって「きっかけ」となれる教員になりたい!
- 自分の弱さを公にでき、他人の弱さを受け止められる教員になりたい!
- 誰かの心を救えるような教員になりたい!
- 一人ひとりの子どもに寄り添って、個性や可能性を広げられる教員になりたい!
- 行動して、経験して、それを子どもに伝えられる先生になりたい!
- 教えることを心から楽しめる教員になりたい!

ちゃぶ台協議 学生たちとの対話を振りかえって

研修の最後のコマは学生たちとの座談会の振り返り。前半は学生たちに感じた「特長と成長課題」について、特に「特長（長所、強みや魅力的と感じる特性等）」をランキングしながら交流しました。後半は自分のファシリテーションについて、①話し合い、対話の場づくり（心理的安全性）、②話し合い、対話の流れをつくる技術（問い・傾聴・構造化）、③参加者の学びを引き出す姿勢（促し・承認・意味づけ）で省察し、「自分のファシリテーションのタイトルづけ」をしました。初対面の「コーホート」メンバーや学生たちとの話し合いはナカナカ難しかったと思いますが、「ファシリテーターとしての自分の癖や思考スタイルの自覚」にもつながったようです。

「ちゃぶ台」協議 学生たちとの「対話」を振り返って（対話・省察）

「ちゃぶ台協議（対話）」のテーマ（前半）

教員として、ちょっと年上の先輩として、学生たち（1年生）との対話に、何を感じましたか？

- 自分との対話 学生たち（1年生）に感じた...
 - ① 特長（長所、強みや魅力的と感じる特性等）を「3つ」程度、
 - ② 成長課題（育てていきたい、伸ばしていきたい特性や力等）を「1つ」考える
- 他者との対話 それぞれの班の様子を紹介し合いながら...
 - ① 合議し、特長と感じたものを「3段のピラミッド・ランキング」で表す
 - ② 成長課題について、自由に対話、意見・情報交換する



「ちゃぶ台」協議 学生たちとの「対話」を振り返って（対話・省察）

「ちゃぶ台協議（対話）」のテーマ（後半）

今日のファシリテーションに「タイトル」をつけるとしたら、どう感じるようになりますか？

- 自分との対話 今日のファシリテーションについて振り返る...
 - ① 話し合い、対話の場づくり（心理的安全性）

参考 対話の促進方法 取り残さない配慮 相づち・うなずき 批判しない姿勢 言葉を大切に扱う態度 等
 - ② 話し合い、対話の流れをつくる技術（問い・傾聴・構造化）

参考 リフレクション（思い換え・要約） 話し合いや話の構造化（流れの整理、まとめ） 時間配分 等
 - ③ 参加者の学びを引き出す姿勢（促し・承認・意味づけ）

参考 承認（肯定的フィードバック） 深掘りや広がりへの問い 他者の発言との接続 対話の意味づけ 等
- 他者との対話 それぞれの班で雰囲気も違うでしょうから...
 - ① 自由に対話、意見・情報交換する

参加者のコメントから

グループ協議でのファシリテートも自身の学びとして、とても実のあるものになりました。「協議のファシリテート」を意識すれば、こちらが話す時間を減らさないといけませんが、「学生の質問への回答」もしなければならぬので、どうしても話す時間も確保しないといけないうことへのバランス調整が難しかったです。そのなかでも「1人1人が発言する回数や時間の確保」に加え、「全員の質問に答える」ことができたので良かったです。同じグループの〇〇さん（学部生）が、対話の絶妙なタイミングで後輩に学んでほしいホットなキーワード（PBSなど）を出してくれたので、そこもとても学生には良き学びになったと感じています。良い助手みたいな感じで頼もしかったです。ぜひ採用試験に受かってほしいです。振り返りでは、〇〇さん（ストマス院生）が「学生は経験がない分バイアスがかかっていないので、物事を見る目のバランスが取れている」ことについて価値づけてくれました。経験が増すほど専門性は高まりますが、常に柔軟な心や頭をもちつづける教師集団をつくれるような声かけができるリーダーになりたいと思いました。（中学校）

ファシリテーターとして座談会へ臨んだが、座談会が始まる前に、もう少し準備や計画、どのように会を進め、どこをゴールにするかといったある程度のビジョンの共有が必要だと思った。学生からの質問や思いを聞く中で



なんとなく方向性がみえてきて、そこに向けて話を進めていったという感じだったことを協議の中で確認できた。なんだか「ジャズセッションのような感じ」であったと最後はまとまった。お互いの良さを対話の中から引き出し、リズムを崩さず同調しながら「一つの曲として成立させる」ような感覚を共有できたと思いました。何が必要（ポイント）だったのだろうと考えていますが、まだ今ひとつまとまっていないのでこれからまた考えていきたいと思っています。（中学校）

現職の先生のファシリテーションを振り返りながら、対話という行為そのものの意義について深く考えることができた。特に印象に残ったのは、現職の先生のファシリテーションの丁寧さである。「ちょっと話してもいいよ」という言葉がけや、場の雰囲気をつくるための働きかけによって、心理的安全性が保たれた対話の場が自然と生まれていた。また、ペアワークをさせた後にすべてのペアの意見を拾い上げたり、質問されてもすぐに答えるのではなく「聞き返す」という技術を使ったりすることで、参加者一人ひとりが自分の頭で考える時間が確保されていた。発問を聞き返すことによって全員が参加できる場がつけられ、出された意見に対して丁寧に応答する姿勢が、「もう分かっているじゃん」というひと言とともに即時評価として機能していたことも、非常に学びになった。教員は話したがりが非常に多い。しかし、今回のファシリテーションを目の当たりにして、人の意見を聞くことで得られるものの多さを改めて実感した。自分の考えにとらわれず、多面的・多様な考えを聞き取り入れることで、子どもたちにとって何がよいのかを常に再考し続けることこそが、教員としての力を高め続ける原動力になると感じた。また、協議の中で学生の特長としてピラミッドにまとめられた「本気熱（圧）」「将来への見通し」



「リアリティーの追求」という三層の構造は、対話を通して初めて可視化されたものであった。一人では気づけなかった他者の視点が、対話という形式を通して表れてきたのである。自分を客観的に見ることの重要性も、改めて痛感した。自己評価と他者からの評価のずれを丁寧に確認する姿勢こそが、教師力を高めるための重要なポイントであると考えた。私は今回のファシリテーションには「開かぬなら 開いて見せよう 学生の心」というタイトルを付けた。問いかけ、聞き返し、受け止めるという一連の営みを通じて、閉じていた学生の心が開かれていく様子を目の当たりにし、これこそが対話の本質を言い表していると感じたからである。(ストマス院生)

座談会の後から、ガラガラとした情熱ある語りが増えた先生がいっぱい、そのことが印象的だった。自己開示とそれに対するリアクションと、それらがスムーズに繰り返されていくと、時間が経過するとともに対話に熱が入り前のめりになっていく。活発な対話をしかけるなら、自己開示とその受容がなされやすい話題や仕組みを多く準備しておくによさそうだ。ネーミングやタイトルをつける活動は、自由度があると同時に、それまでの活動の解像度を上げて焦点化したり、話題を統合したり、複数の視点を振り返ったりと色々な効果があると感じた。そして、多くの人の共通認識を促したり、目線をそろえたりすることも期待できることから、あらゆる教育活動の中でそういう意図をもって取り入れていきたいと感じた。(高等学校)

学部生・大学院生・現職の先生方、そして大学教授等、多様なバックグラウンドを持つ方々と班を組む機会を得た。当初は立場や経験値の違いから大きな緊張感を抱いていたがディスカッションの冒頭で「一人ひとりを大切に」という共通のスタンスが共有されたおかげで、温かい雰囲気の中で対話を進めることができた。教育や授業のあり方をテーマにした議論では、時に批判的な意見が飛び交い、場が硬直化してしまうこともあったと感じる。その為、多様な人とのディスカッションにおいて少し苦手意識を持っていた。しかし、「ちゃぶ台のルール」が共有された上でのディスカッションであった為、誰もが意識的にポジティブな空気感を作り出そうとし、立場に関わらず自身の考えを素直に発言できる環境が作れたと感じる。このような心理的安全性があったからこそ、萎縮することなく安心して意見交換ができ、全員で協働して課題に取り組むことができた。立場の異なる人々が集まる場において、ルールに基づいた安心感のある土台づくりがいかに重要であるかを実感すると共に多角的な視点から教育について考える時間となった。(ストマス院生)



閉会行事と諸連絡

教育庁教職員課の丸山茂生主査から「ちゃぶ台」の先進性、教育的意義や可能性にふれた総括的コメントが、教育学部・教育学研究科の中田 充学部長・研究科長から閉会の挨拶があり、熱気に満ちた終日の研修を終了しました。

本年度の第1回は、いつも早くから来て会場設営や準備をしてくれる現職教員のみなさんや教職大学院生に加えて、教育学部生も進んで手伝ってくれました。研修行事の企画立案、会場設営から後片付けまで、本当に皆さんのおかげです。ありがとうございました。まるでワールドカップの日本代表を見ているようでした。組織力、団結力、サポート力に心から感謝です。



if you want to go fast, go alone. if you want to go far, go together!

「学級通信」のタイトルに入れた一文、見て貰えました? ご存じでしたか? 昨年度の研修びらきでも伝えたお気に入りの一文です。データサイエンティストやエコノミストとして有名なアンドリュー・ホイットビー (Andrew Whitby) が、ケニア在住の牧師から「元々はブルキナファソの諺」と紹介され(起源はアフリカ外説を含め諸説あり)、岸田文雄元首相が所信表明演説でも引用した諺「早く行きたければ一人で進め。遠くまで行きたければみんなで進め。」 そう...まさに...「ちゃぶ台」はみんなで進みたいのです。本年も宜しくお願いします。

次回(8.22)は、あの「立花高校の齋藤真人校長」登場です!

きゃ〜ッ 超全国区! TV、新聞や教育雑誌等でお馴染みの齋藤校長先生。超ご多用の中でお招きしました。子どもたちへ愛情を、社会に寛容の精神を! 一緒に楽しく学び合いましょう。今月の中旬ころ、「出欠確認」等についてメール配信の予定です。

このプログラムでは託児サービスも提供しています! ご利用ください!

今回は午前・午後で「通信」をつくりました。質量ともに豊かで、迫力ある振り返りを送って貰って、計7ページにもなっていました(^^) Thank you! 次回以降も楽しみにしています。8.22にお会いしましょう。(事務局)



令和8年度「ちゃぶ台次世代コーホート」について

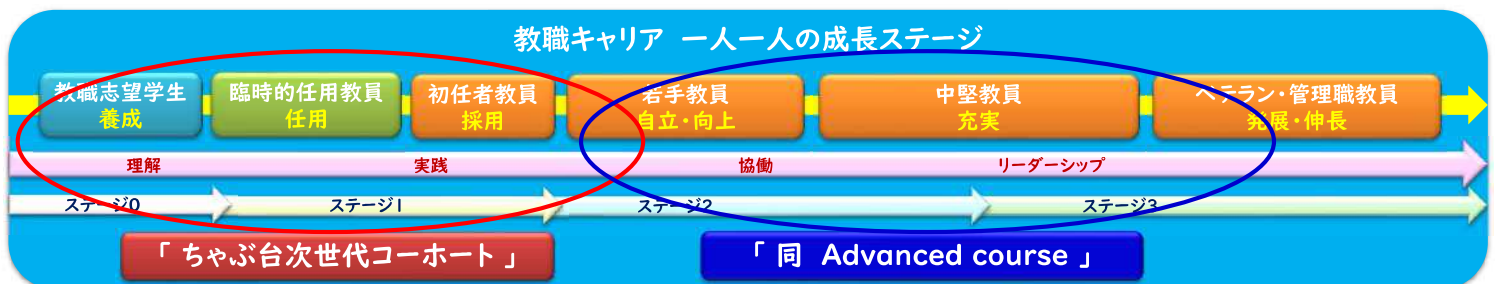
NITS山口大学センター研修プログラム名 「ちゃぶ台次世代ステップアップ研修講座」

主催：山口大学（教育学部・大学院教育学研究科・NITS山口大学センター） 共催：山口県教育委員会・山口市教育委員会



自主的・自発的に学び合う中で、自身や仲間や学校に向き合い、
これからの教育や実践を協働・創造していける
温かく、連帯的な「学び合いのコミュニティ」を創っていきましょう！
「みんなを誘いたくなる研修」 多くの皆様のご参加をお待ちしています。 |

「ちゃぶ台次世代コーホート」、「同 Advanced course」とは



- ・教職志望学生、現職教員、大学教職員、教委関係者や多様な教育関係者が、
自主的・自発的に集い学び合う「教員養成・研修の一体化」プログラム
- ・自分自身、自らの教育実践や多様な教育課題を理解し、改善・解決をめざす
仲間（コーホート）として、「対話・省察・気づきを大切に学び合う」プログラム
- ・広く「県内外に公開」し、6～2月の偶数月、土曜日に行う研修会を中心に、大学教員によるセミナー等も加えて提供するプログラム



令和8年度の計画 めざす姿と前年度からの変更点

自主的・自発的に学び合う中で、自身や仲間や学校に向き合い、これからの教育や実践を協働・創造していける、温かく、連帯的な「学び合いのコミュニティ」を創っていきたい！



変更点

開始時期

大学としての卒後ケア（初任者、臨時的任用教員のフォロー、還ってくる場の提供）や学生の意識向上、キャリア形成支援を強化する
→「コーホート」の開始時期を昨年度までの10月から6月に早める

負担軽減

全ての参加者の「参加しやすさ」「学びやすさ」を大切に、プログラムの日程、回数や方法等を変更する
→「半日日程」を基本とし、一部を「ハイブリッド」公開セミナー型にする

研修改善

知識習得型（課題対応等）研修と「ちゃぶ台（対話・省察と気づき等）」を効果的に組み合わせる＋参加者同士の「つながり」の醸成を重視する
→予算削減に対応＋「受け取る」から「相互に揺さぶる」感覚を楽しむ

3

令和8年度の研修行事の計画（予定）

第1回 6月20日（土）9:30～16:30

- ① 山口県教育委員会の本年度の重点施策、プロジェクト
教育庁教育政策課 班長 灘 貴之
- ② 私の教職キャリア、教育に対する思い ～ 教職をめざす学生たちとの対話 ～



第2回 8月22日（土）13:00～17:00

- ① 教育的愛情と子どもたちへの関わり ～ それでよか、そのままでよかの心 ～
学校法人立花学園 立花高等学校 校長 齋藤真人



第3回 10月24日（土）13:00～17:00

- ① 探究が生み出す価値創造と学校改革
～ 「サバ缶、宇宙へ行く」と学校づくり ～
福井大学 教授 中森一郎
(前 福井県立若狭高等学校 校長)

令和8年度の研修行事の計画（予定）

特設 11月8日（日）9:00～17:00

① 「山口大教育フェス2026」への参画

個人・グループや学校単位の実践・研究の発表、報告やブース出展

区分1 子ども（幼児・児童・生徒）向けの体験活動ブース

区分2 教職員、教職志望学生、教育関係者や一般大人向け演習・講座ブース

→ 「ちゃぶ台」に参加する教員、学生や教職大学院生は発表・出展等で参加

→ 学校関係者（教職員等）は、誰でも発表、報告やブース出展が可能（歓迎）

第4回 12月26日（土）13:00～17:00

① 包摂を実装する学校づくり

～ 境界を問い直し、共に学ぶ教育の形を探究する ～

広島大学 准教授 南浦涼介

令和8年度の研修行事の計画（予定）

第5回 2月6日（土）13:00～17:00

① トップセラーは「顧客の幸福と車の未来」をどう描こうとしているのか

山口マツダ株式会社 営業部門担当

② 保護者は「子どもの成長と学校・地域の未来」をどう描こうとしているのか

山口県PTA連合会役員（保護者との対話）

公開セミナー

○ 7月29日（小杉）、10月14日（和泉）、10月21日（霜川）

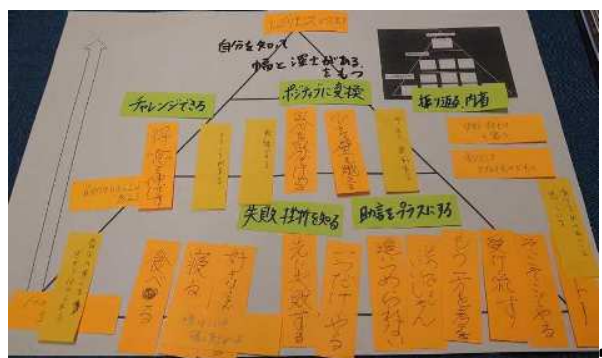
15:00～16:00に実施予定

○ 山口県の教育課題に関するテーマについて、
教職大学院科目担当（小杉・和泉・霜川）が企画・実施

○ 教職大学院の授業に参加するイメージの公開講座として、平日（水曜日）午後、
山口大学を主会場に実施する。

参考資料

令和7年度の概要報告



「ちゃぶ台次世代コーホート」、「同 Advanced course」の令和7年度の様子

参加者（登録者）

公募により自主的・自発的に参加した現職教員 28

教職大学院に在籍する現職教員 16

教職大学院生（学部卒院生） 14

県教委とやまぐち総合教育支援センターの指導主事・研究指導主事 3

県内市・町教委の指導主事 4

山口大学教職員 22 計 87 人 + 託児スタッフ 3 人



参加者数（延べ数）

10回の研修行事に参加した者 計 721 人



「ちゃぶ台次世代コーホート」、「同 Advanced course」の令和7年度の様子

第1回 6月14日(土) 13:00~17:00 山口大学

- ① 山口県教育の重点と教育予算ができるまで
教育庁教育政策課 班長 瀬 貴之
- ② 山口県地域連携教育の現在地とこれから
教育庁地域連携教育推進課 班長 一島 圭



第2回 8月23日(土) 13:00~17:00 山口大学

- ① 初任・若手教職員の成長を支えるために
岐阜県大垣市立興文中学校 校長
前 西濃教育事務所長、岐阜大学准教授 日比光治



第3回 10月4日(土) 9:30~12:30 山口大学

- ① 道德教育の推進とミドルリーダー
香川大学大学院教育学研究科
教授 清水顕人



「ちゃぶ台次世代コーホート」、「同 Advanced course」の令和7年度の様子

第4回 10月4日(土) 13:30~17:30 山口大学

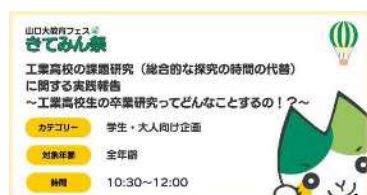
- ① 集団・学級づくりの面白さと教員としての関わり
香川大学大学院教育学研究科 准教授 大西美輪



第5・6回 11月30日(日) 9:30~16:30 山口大学

「山口大教育フェス」への参画(来場者574人 協賛・出展企業 Google、NHK for school等10社)

- ① 会員(現職教員)による実践・研究発表やブースの出展
(「ちゃぶ台次世代コーホート」からの発表等 7点)
- ② 命のミュージアム in 山口大学(コーホート企画として出展)
グリーフサポート山口 代表 京井和子



「ちゃぶ台次世代コーホート」、「同 Advanced course」の令和7年度の様子

第7回 12月27日(土) 9:30~12:30 セントコア山口
行列ができるかも?の学校法律相談NITS-Café

① 学校の教育活動を法務の視点から探る

いたむら法律事務所 弁護士 藤村亮平



第8回 12月27日(土) 13:30~17:00 セントコア山口

保護者と交わり・学び合うNITS-Café

① 保護者との対話をとおして考える

山口県PTA連合会役員他

第9・10回 3月14日(土)

10:30~17:00 山口大学

① 1年間の教師としての成長を振り返る

② これからの教育と若手教員への期待

萩市教育委員会 教育長 池田廣司

